

GIC Discussion Paper

Center for Global Innovation Studies, Toyo University

No. **15**
2020年11月

[ワーキングペーパー]

「新グローバル化と日本経済」研究プロジェクト

新グローバル化と日本経済：問題意識

真鍋 雅史 嘉悦大学ビジネス創造学部教授

竹中 平蔵 東洋大学グローバル・イノベーション学研究センター センター長
国際学部グローバル・イノベーション学科 教授



TOYO UNIVERSITY

序

グローバル・イノベーション学研究センターでは、「グローバル・イノベーション学の研究」の一環として、令和元年度に「新グローバル化と日本経済」を主題とした研究プロジェクトを実施してきました。この研究プロジェクトの目的は、「新グローバル化」とも捉えられる世界の潮流の変化が日本経済に与える影響を評価し、また今後の日本経済に対する政策を検証することにあります。この度、研究プロジェクトの成果を以下の通り取り纏め、それぞれ GIC Discussion Paper として公表することとしました。

<「新グローバル化と日本経済」研究プロジェクト>

第1章：新グローバル化と日本経済：問題意識

真鍋雅史（嘉悦大学）・竹中平蔵（東洋大学）

第2章：「新グローバル化」と経済：サーベイ

平賀一希（東海大学）

第3章：「新グローバル化」とイノベーション：ファクトファインディング

土屋貴裕（京都先端科学大学）

第4章：新グローバル化と日本経済：華為技術の事例

真鍋雅史（嘉悦大学）・跡田直澄（京都先端科学大学）

第5章：新グローバル化と日本経済：政策的含意

真鍋雅史（嘉悦大学）・跡田直澄（京都先端科学大学）・竹中平蔵（東洋大学）

本稿は、「新グローバル化と日本経済」研究プロジェクトの成果の一部です。なお、令和2年8月12日には、オンライン形式で「新グローバル化と日本経済」研究プロジェクトの成果報告会を実施し、多くの方々から有益なコメントを頂戴しました。改めて記して感謝の意を表したいと思います。

グローバル・イノベーション学研究センター センター長
「新グローバル化と日本経済」研究プロジェクト 主査
竹中平蔵

第1章：新グローバル化と日本経済：問題意識¹

真鍋雅史²

竹中平蔵³

1. 1 はじめに

令和という新たな時代を迎えた日本経済ではあるが、平成の時代はバブル崩壊と長期不況、改革とその逆行という不安定な時代であった。その背後では、グローバル化と少子高齢化が進展していたが、情報通信技術の飛躍的な発展も伴っていた。国際的にも国内的にも大きな変革期を迎えている令和時代の日本経済は、どのような課題に直面し、そしてそれらをどう乗り越えていくべきなのだろうか。

一つの大きな課題は、新グローバル化とも呼ぶべき、グローバル化の新たな潮流である。ベルリンの壁の崩壊、東西冷戦の終結、中国のWTO加盟といった出来事を契機として、グローバル化は大いに進展し、世界経済は自由に、また密接に関連しあうようになっている。この自由経済の広がり、深化を世界経済は大いに謳歌してきたといえる。一方でそのような動きに対して、政治的な新たな動きが出て来ている。トランプ大統領の誕生による米国一国主義やBrexitである。このような政治的な潮流は、グローバル化に逆行するかのように見える。こうした新グローバル化とも呼ぶべき新たな潮流の中で、日本はどのように改革を進めていくべきであろうか。

また、新グローバル化という新たな潮流の中で、世界経済を大きく飛躍させるとともに様々な課題解決につながるのが、情報通信分野の技術革新である。Amazon や

¹ 本研究は、東洋大学グローバル・イノベーション学研究センター「新グローバル化と日本経済」研究プロジェクトの研究成果である。本稿の作成に当たっては、竹中平蔵東洋大学グローバル・イノベーション学研究センター長・教授をはじめ多くの方々から助言を受けた。記して感謝したい。なお、本稿にあり得べき主張、誤りの一切の責任は筆者ら個人に帰するものである。いうまでもなく、筆者らの所属機関あるいは本プロジェクトの実施機関の見解を代表するものではない。

² 嘉悦大学ビジネス創造学部教授

³ 東洋大学グローバル・イノベーション研究センター長・教授

Google、華為技術の例を挙げるまでもなく、その進歩はグローバル・イノベーションと呼べるほど世界的な広がりを持っている。しかしこのグローバル・イノベーションもまた、新グローバリゼーションの中で、自由な広がりには足かせがかかっているといつてよい。

こうした状況に直面する日本経済にとっては、新グローバリゼーションの潮流の中で、グローバル・イノベーションをいかに活用し、世界経済をリードしていけるかが課題となっている。確かに日本経済は、米国や英国が主導する一国主義とは異なり、TPPの推進など自由経済を推進しているという側面もある。しかしバブル崩壊以降、改革はなかなか進まず、遠隔医療や遠隔教育への規制の例を挙げるまでもなく、グローバル・イノベーションへの対応も大きく遅れているともいえよう。

1. 2 問題意識

そこで、本研究では、以下の問い立てについて議論していこう。すなわち、このような新グローバリゼーションとグローバル・イノベーションの中で、日本経済は実態としてどのような状況下にあるのであろうか。また、日本経済は新グローバリゼーションとグローバル・イノベーションの中で、どのような選択をすべきであろうか。この問い立てへの視点を得るために、本研究を展開していきたい。

1. 3 本研究の構成

本研究は以下のように展開される。まず第2章（平賀論文、Discussion Paper No. 16）は、「新グローバリゼーション」が進展することで経済に与える影響について、直接的、および間接的な影響を通じた効果に着目した上で、先行研究のサーベイを行う。

次に第3章（土屋論文、Discussion Paper No. 17）は、グローバリゼーションの下で進展したイノベーションと情報の連結性について、ファクトファインディングを行うとともに、「新グローバリゼーション」環境下におけるイノベーションとその課題について整理を試みる。

第4章（真鍋・跡田論文、Discussion Paper No. 18）では、グローバル・イノベーションの代表例であり、新グローバリゼーションの好例としても位置付けることができる、中国、華為技術を事例に取り上げ、華為技術が日本経済に与えている影響を定量的に評価することを試みる。

最後に第5章（真鍋・跡田・竹中論文、Discussion Paper No. 19）では、これまでの結果

を取りまとめ、先に議論した問いに対して、一定の視点を得るとともに、日本経済の持続的な成長に必要な政策的含意を得たい。

GIC Discussion Paper

No. 15

発行日
2020年11月30日

発行人
竹中平蔵

発行所
東洋大学グローバル・イノベーション学研究センター
Center for Global Innovation Studies
〒112-8606 東京都文京区白山5-28-20
Tel: 03-3945-7769 / fax: 03-3945-7906